

宮崎県感染症週報

■ 宮崎県第3週の発生動向

定点医療機関からの報告総数は2,376人（定点あたり56.2）で、前週比120%と増加した。

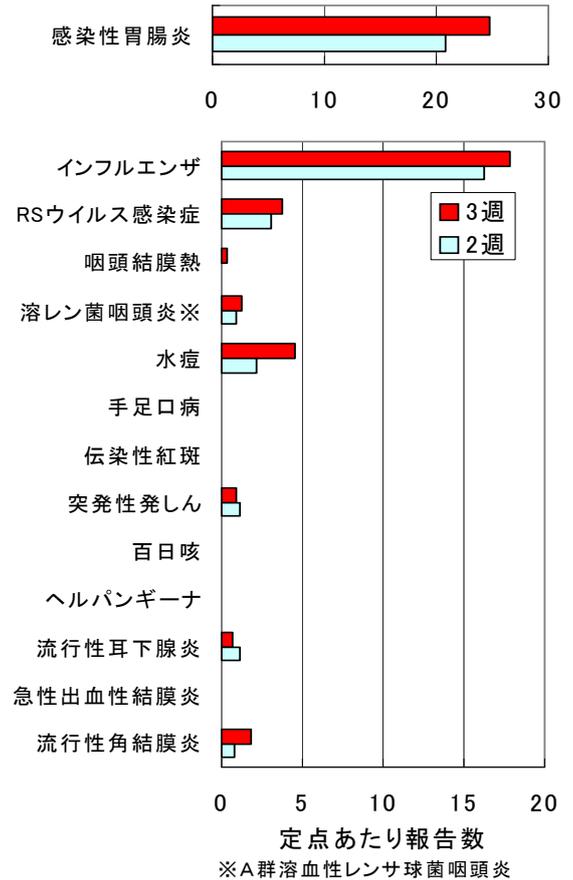
前週に比べ増加した主な疾患は感染性胃腸炎と水痘で、減少した主な疾患は流行性耳下腺炎であった。

感染性胃腸炎の報告数は893人（24.8）で前週比119%と増加した。例年同時期の定点あたり平均値（16.6）の約1.5倍と多い。日南（40.7）・小林（37.7）・都城（29.0）・宮崎市（26.7）・高鍋（24.5）保健所からの報告が多く警報レベルを超えている。年齢別では1歳から5歳で全体の約6割を占めた。

水痘の報告数は164人（4.6）で前週比210%と増加した。例年同時期の定点あたり平均値（4.2）の約1.1倍と多い。都城（7.5）・日向（6.8）・日南（6.0）保健所からの報告が多く、都城保健所管内では警報レベルを超えている。年齢別では1歳から3歳で全体の約7割を占めた。

インフルエンザの報告数は1,050人（17.8）で前週比109%と増加した。小林（28.8）・日南（24.2）・高鍋（21.3）保健所からの報告が多く、年齢別では5歳以下が全体の32%、6-9歳が26%、10-14歳が18%、15-19歳が7%、20歳代-50歳代が16%、60歳以上が1%を占めた。

《前週との比較》



□ 保健所別流行警報開始基準値超過疾患

	流行警報 開始基準値	定点あたり報告数		年 齢 分 布
		宮崎県全体	基準値を超えた保健所	
感染性胃腸炎	20	24.8	日南(40.7)、小林(37.7)、 都城(29.0)、宮崎市(26.7)、 高鍋(24.5)	1歳～5歳で全体の6割を占めた。
水痘	7	4.6	都城(7.5)	1歳～3歳で全体の7割を占めた。

■ 病原体情報（衛生環境研究所 微生物部）

□ 細菌（平成 22 年 1 月 26 日までに分離同定）

同定細菌名	年齢	性別	採取月日	臨床診断名等	分離材料	分離同定日	衛研番号
<i>Salmonella</i> Enteritidis (O9:g,mr-)	70代前半	女	1.8		便	1.15	10501

□ ウイルス

報告なし。

■ 全数把握対象疾患

1 類感染症：報告なし。

2 類感染症：結核 9 例が延岡（3 例）、都城（2 例）、日南（2 例）、宮崎市、小林（各 1 例）保健所から報告された。

《延岡保健所》
・90 歳代の男性で肺結核。痰がみられた。
・80 歳代の女性で疑似症患者。呼吸困難がみられた。
・30 歳代の女性で疑似症患者。咳、痰、発熱がみられた。

《都城保健所》
・30 歳代の男性でその他の結核（結核性胸膜炎）。発熱がみられた。
・80 歳代の男性で肺結核。咳、痰、発熱がみられた。

《日南保健所》
・80 歳代の女性で肺結核。発熱がみられた。
・50 歳代の男性で肺結核。体重減少、倦怠感がみられた。

《宮崎市保健所》
・30 歳代の女性で無症状病原体保有者。

《小林保健所》
・50 歳代の女性で無症状病原体保有者。

3 類感染症：報告なし。

4 類感染症：報告なし。

5 類感染症：○急性脳炎 1 例が都城保健所から報告された。12 歳の男子で発熱、嘔吐、意識障害、髄液細胞数の増加がみられた。
○後天性免疫不全症候群 1 例が中央保健所から報告された。40 歳代の男性で AIDS。耳下腺腫脹、腹腔内リンパ節腫脹がみられた。
○麻しん（臨床診断例）1 例が日南保健所から報告された。13 歳の男子で発熱、咳、発疹がみられた。ワクチン接種歴 1 回あり。

■ 全国第 2 週の発生動向

定点医療機関あたりの患者報告総数は 24.0 で、前週比 99% とほぼ横ばいであった。今週増加した主な疾患は感染性胃腸炎と A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎で、減少した疾患はインフルエンザと水痘であった。

感染性胃腸炎の報告数は31,870人(10.5)で、前週比122%と増加した。例年同時期に比べても約1.3倍と多くなっている。宮崎県(20.8)、愛媛県(18.5)、大分県(17.7)からの報告が多く、年齢別では1歳から3歳で全体の約4割を占めた。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告数は2,818人(0.9)で、前週比129%と増加したが、例年同時期の約8割である。山口県(2.7)、鳥取県(2.6)、富山県(2.0)からの報告が多く、年齢別では3歳から7歳で全体の約6割を占めた。

インフルエンザの報告数は39,053人(8.13)で、前週比89%と減少した。沖縄県(50.0)、宮崎県(16.3)、静岡県(16.0)からの報告が多く、年齢別では5歳以下が全体の28%、6-9歳が18%、10-14歳が13%、15-19歳が8%、20歳代から50歳代が31%、60歳以上が2%を占めた。

□全数把握対象疾患

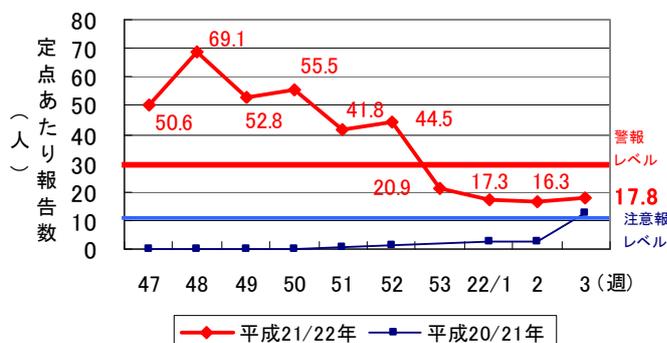
- 1 類感染症 : 報告なし。
- 2 類感染症 : 結核 194 例
- 3 類感染症 : 細菌性赤痢 4 例、腸管出血性大腸菌感染症 16 例
- 4 類感染症 : E 型肝炎 1 例、A 型肝炎 1 例、マラリア 1 例、ライム病 1 例、レジオネラ症 7 例
- 5 類感染症 : アメーバ赤痢 11 例、急性脳炎 3 例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症 3 例、後天性免疫不全症候群 13 例、梅毒 6 例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症 1 例、麻しん 5 例

■ インフルエンザ情報《県内第3週、全国第2週（再掲）》

□ 県内第3週インフルエンザ発生動向

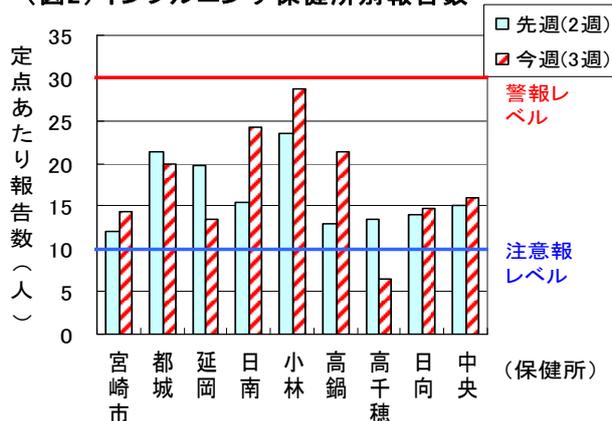
平成22年1月18日～1月24日までの1週間で1,050人（定点あたり17.8）の報告があり、前週比109%と増加した（図1）。小林（28.8）・日南（24.2）・高鍋（21.3）保健所からの報告数が多く（図2）、年齢別では5歳以下が全体の32%、6-9歳が26%、10-14歳が18%、15-19歳が7%、20歳代-50歳代が16%、60歳以上が1%を占めた（図3）。

（図1）インフルエンザ週別発生状況（過去10週）

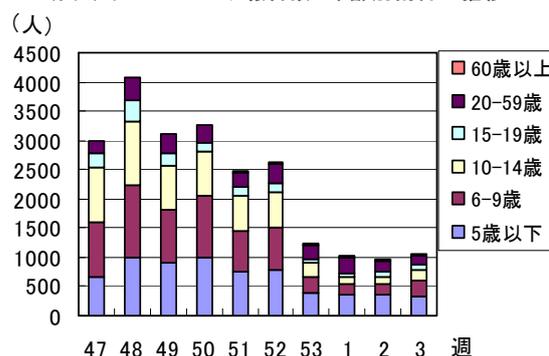


	第3週 (1/18~1/24)	累計 (21/30~22/3週)
集団発生件数	2	429
遺伝子検査陽性件数	5	404
型別		
AH1亜型(ソ連型)	0	0
AH3亜型(香港型)	0	2
AH1pdm(新型)	5	402
入院患者数	9	244
重症患者数	1	15
死亡者数	0	3

（図2）インフルエンザ保健所別報告数



（図3）インフルエンザ報告数 年齢別割合の推移



インフルエンザ 警報・注意報レベル状況

インフルエンザの定点あたり報告数と警報・注意報レベル発生状況

○:警報レベル、△:注意報レベル、-警報・注意報レベルなし

保健所	今週 (3週)		1週前 (2週)		2週前 (1週)		3週前 (53週)		4週前 (52週)		5週前 (51週)	
	定点	状況	定点	状況	定点	状況	定点	状況	定点	状況	定点	状況
宮崎市	14.3	△	12.1	△	11.9	△	15.7	△	35.3	○	44.8	○
都城	19.9	△	21.3	△	19.9	△	33.9	○	64.8	○	48.3	○
延岡	13.4	△	19.7	△	22.7	△	21.3	△	47.6	○	40.9	○
日南	24.2	△	15.4	△	18.4	△	27.2	△	55.8	○	47.6	○
小林	28.8	△	23.6	△	35.8	○	29.4	△	51.8	○	48.8	○
高鍋	21.3	△	13.0	△	9.2	-	18.3	△	45.5	○	44.3	○
高千穂	6.5	-	13.5	△	16.0	△	23.0	△	17.5	△	20.5	△
日向	14.7	△	14.0	△	14.3	△	9.3	-	35.0	○	27.5	△
中央	16.0	△	15.0	△	14.3	△	5.0	-	20.7	△	24.0	△

□ 全国第2週インフルエンザ発生動向

平成22年1月11日～1月17日までの1週間で39,053人（8.1）の報告があり、前週比89%と減少した。沖縄県（50.0）、宮崎県（16.3）、静岡県（16.0）からの報告が多く、年齢別では5歳以下が全体の28%、6-9歳が18%、10-14歳が13%、15-19歳が8%、20歳代から50歳代が31%、60歳以上が2%を占めた。

宮崎県 感染症情報

(72定点医療機関)

2010年 第03週(01月18日～01月24日)

疾病名		第2週	第3週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数	961	1050	215	199	94	121	144	128	13	88	48
	定点あたり	16.29	17.80	14.33	19.90	13.43	24.20	28.80	21.33	6.50	14.67	16.00
RSウイルス 感染症	報告数	112	133	24	6	56			29	1	16	1
	定点あたり	3.11	3.69	2.67	1.00	14.00	0.00	0.00	7.25	1.00	4.00	0.50
咽頭結膜熱	報告数	4	11		2	2	3				3	1
	定点あたり	0.11	0.31	0.00	0.33	0.50	1.00	0.00	0.00	0.00	0.75	0.50
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	報告数	31	47	8	10	12	7		4	2	1	3
	定点あたり	0.86	1.31	0.89	1.67	3.00	2.33	0.00	1.00	2.00	0.25	1.50
感染性胃腸炎	報告数	750	893	240	174	40	122	113	98	4	65	37
	定点あたり	20.83	24.81	26.67	29.00	10.00	40.67	37.67	24.50	4.00	16.25	18.50
水痘	報告数	78	164	33	45	19	18	8	6		27	8
	定点あたり	2.17	4.56	3.67	7.50	4.75	6.00	2.67	1.50	0.00	6.75	4.00
手足口病	報告数	5	4				2		1		1	
	定点あたり	0.14	0.11	0.00	0.00	0.00	0.67	0.00	0.25	0.00	0.25	0.00
伝染性紅斑	報告数	1	2				2					
	定点あたり	0.03	0.06	0.00	0.00	0.00	0.67	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
突発性発しん	報告数	42	33	9	8	4	4	2	4		2	
	定点あたり	1.17	0.92	1.00	1.33	1.00	1.33	0.67	1.00	0.00	0.50	0.00
百日咳	報告数		1			1						
	定点あたり	0.00	0.03	0.00	0.00	0.25	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
ヘルパンギーナ	報告数		1						1			
	定点あたり	0.00	0.03	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.25	0.00	0.00	0.00
流行性耳下腺炎	報告数	42	26	5	4	6		1			10	
	定点あたり	1.17	0.72	0.56	0.67	1.50	0.00	0.33	0.00	0.00	2.50	0.00
急性出血性結膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						
流行性角結膜炎	報告数	5	11	10		1						
	定点あたり	0.83	1.83	3.33	0.00	1.00						
細菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
クラミジア肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	

インフルエンザ定点:59、小児科定点:36(インフルエンザ定点を兼ねる)、眼科定点:6、基幹定点:7

上段:報告数
下段:定点当り報告数

●全数把握対象疾患累積報告数(2010年第3週)

2類感染症	結核	12例(9)					
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	1例(1)					
5類感染症	急性脳炎	2例(1)	後天性免疫不全症候群	1例(1)	麻しん		1例(1)

()内は今週届出分、再掲

こども感染症情報

嘔吐下痢症（感染性胃腸炎）と水ぼうそうが増えています。（1月18日～1月24日）

嘔吐下痢症（感染性胃腸炎）は日南市、小林市、都城市、宮崎市、高鍋町周辺からの報告が多く警報レベルを超えています。5歳以下の小さな子ども達が多く感染していますが、高齢者を含めた幅広い年齢層で報告されています。

嘔吐と下痢が主な症状ですが、熱が出たり、嘔吐や下痢によって脱水症を起こす場合もあります。

感染を予防するためには、手洗いが最も重要です。トイレの後、調理や食事の前には必ず石けんで手を洗いましょう。

水ぼうそうは都城市周辺からの報告が多く、警報レベルを超えています。その他日向市、日南市周辺からの報告も増えています。1歳から3歳の子どもたちが多く感染しています。

感染すると37～39度の熱が出て、それと同時に強いかゆみの伴った小さな水ぶくれが全身にできます。水ぶくれは3～4日たつと破れて乾き、黒いかさぶたになりかゆみもおさまってきます。人にうつる力が強いので、水ぶくれが完全に乾くまで、外出は控えましょう。